

羅生門 下人の成長 論文の書き方

目標は全員が下人がいつ、なぜ、どのようにして大人になったのか？理解することである。授業を通して説明していたが、答えは一つではない。テキスト（本文）をもとにした根拠をあげて論すれば、「答え」は無数にあると言つてもいい。

ただし、「答え」がA・B2つ上がったとき、Aを選んだ人は、「Bはなぜ違うのか。」ということが言えなければ、「Aが答えた」とは言えない。その逆も同じである。これが『反論』というものだ。この『反論』を受けて、自分が「答え」と考へるその根拠を通せるかどうかでその考へが確かなものかどうかが決まる。

課題

次のフォーマットで論文を作成する。「」には数字を入れ、「」の中はそこに書く内容の説明である。文末表現、文章のつなぎは、各自で考えて入れる。()の中はそこに書く内容の説明である。文末表現、文章のつなぎはアレンジして、自然な日本語にすること。
「文章講座」の4枚のプリントに従つて、「フォーマルな書き言葉」にすること。
ノート1頁に5つ以上のチェックがあつた場合、全文書き直しになるので、注意すること。

「羅生門」の「下人」は、貞行目の「」（一文を抜き出す《文A》）。「」のところで大人に成長した。その理由を次に説明する。

「下人」は始め「。」といつ「問い合わせ」を持つていた。しかし、先に述べた頁行目で下人は「

(下人は何に気づいたのかを記す。)

「に気づいた。よって『下人』の
始めの問いは (下人の「問い合わせ」
がどう変化したかを記す)
た。なぜなら、「老婆」が になつ
人になつたきっかけと「老婆」の関連を記
す。) からである。

大人になつたということは、それ以前は子供ということになる。

たとえば、二文前の 貢 行目の

「たとえば、一文前の 頁 行目の
「」
（《文A》の一文前の一文を抜き
出す）

『よく内容の説明である。文末表現、文章のつな
るな書き言葉』にする」と。
書き直しになるので、注意すること。

(下人がそのときはまだ 子供 であるとい
う理由を記す。)

た二文あとの一 文 徒然の
(《文A》の一文あとの一文を抜き出す)

「と」文では、（下人）がそのときにはもう大人になつていると

大人 といふことが分かる。
（理由を記す。） といふ理由で

「以上のことより、貢行目の
「（一文を抜き出す《文A》）
」が下人が大人になつた人生
の転機である。